



# YES 通信

〒819-1116 糸島市前原中央2-2-22波多江ビル2F 電話 321-4119 2023年10月号

## 筑紫女学園の授業見学に行って感じたこと

先日、筑紫女学園の説明会に参加しました。コロンナであり説明会が実施されていなかったため、久しぶりに今年はいろいろな高校の説明会を楽しませてもらっています。

しかし、筑紫女学園の説明会にはかなり衝撃を受けました。生徒のプレゼンテーションがとてもレベルが高かったのです。

多くの塾長や教室長を前にして堂々とした話しぶりでした。私もファシリテーターとしての勉強をしていたので、いろんな方のプレゼンテーションを見る機会があったのですが、正直、先生の中でもあれだけきっちりとしたプレゼンができる先生はそんなに多くはないかというくらい上手だったのでは。

筑女の若手の先生もとても上手だったので、指導も行き届いているのだろっとなあと感心した次第です。代表者ご名でのプレゼンだったので全員がそのレベルに達している訳ではないのですが、プレゼン出来るスキルを身につかせようとする姿勢を大いに感じました。

元々プレゼンテーション型の入試である総合型選抜入試(旧AO入試)は、1990年に慶応大学のSFC(総合政策学部・環境情報学部)でアメリカ

を見習って導入した経緯があります。

私がサラリーマンをしていた時は慶応の学生が即戦力になるのはプレゼン力を鍛えているからだという話も聞いたことがあります。

1990年に始まった総合型選抜入試(旧AO入試)は、最初は導入している大学が少なかったのですが徐々に増えて来て、ここ数年の受験改革で国立大学でも3割近くがこれからは総合型選抜入試になってきています。また、その影響もあり高校入試でも特色化選抜という名前で加速度的に導入する高校が増えてきています。

なので、その対策のために高校だけではなく中学でもプレゼンテーションの練習が増えてきているのでしょ。

私達の時代だったら人前で話をしたら頭が真っ白になったものですが、これからの時代はプレゼンスキルに長けた学生がどんどん輩出されてきそうな予感です。

「今どきの若者は」なんて言っ方もいらっやいますが、このプレゼンスキルに関しては昔の学生とは次元の違う教育を受けている気がしています。

授業を見学しても昔のように説明を聞いてノートを取るような授業ではなく、中学生の数学の授業を例に挙げると、生徒が3人組のグループになって問

題の解き方を教え合い発表する等、インプットよりもアウトプットを重視した授業になっていました。

さすがに高校生はそこまで余裕はなさそうでしたが、自分たちが研究した事を発表する機会が全員にあるのでそこでプレゼンスキルが磨かれるようなカリキュラムになっています。

この見学を通して感じたのは、やはり筑紫女学園の環境の良さでした。特に、中学から通っている生徒は高校受験がないことや優秀な生徒が集まっているからこそこのようなアウトプット重視の授業が出来るのは本当に羨ましいといしか言いようがありません。ただ聞いているだけの授業よりもアウトプットしながらやる授業は主体性も高まり、とても楽しそうだったのが印象的でした。

このような授業を公立の中学校でやったらとてもじゃないですがついていけない生徒が続出するのでは。

今は、探求といっこともテーマになっていて、好きな事や課題に対して深く学んでいくことも求められています。そのような学びは学年が上がるといったがって忙しくなってきたり時間が取りにくいのであら段階から取り組んでいった方が充実した学びにつながるかと考えています。

そういった意味では、中学受験や小学受験をしていい環境を求める人が増えていることも頷けます。格差社会が話題になりますが、これからは益々その差が広がっていくような印象を受けました。

# やる気相談室

## 右脳

### 右脳教育を受けることで頭のよくなるのか？

右脳教育を受けるとどうなるのか？ 案外イメージしにくいし、実際に私も最初はわからなかったのですが、そろばんを始めて9年になるのでだんだんと体験的にわかってきたのでシェアしたいと思います。

ながら「これくらい儲かりそう」という計算が出来ていたのです。

人の話を聞きながらメモを取るのも得意な人が多いです。このような力は授業中にも生かされます。先生の話をしっかりと聞きながらノートがとれたり、先生が解説していることを頭の中で反芻し、その場で理解できたりする人が多いのも事実です。

私は、全寮制の大学に行きました。それまで勉強が得意な学生は必ず人が見ていないところで勉強を頑張っているんだろーって思っていました。しかし、本当に同じ生活をしているのに、勉強が出来るやつがいるのだと驚いた経験があるのですが、そのような友人は今になって思えば、そろばんやピアノのようなことを幼少期にやっていたのかもしれないと思うようになりました。

次に感じるのが処理能力の高さです。2つのことを同時並行して出来るような脳力があるからか、一般的に処理能力の高い生徒が多いです。塾では算数検定や漢字検定を実施していますが、その際にそろばんを

やっている生徒の速さには驚かされます。算数だけではなく漢字でも早いので、その強みは本当に大きいと感じています。

処理能力が高いとテストの時はもとより、普段の勉強でも普通の人が終わらせるのに1か月かかる問題集を2週間とかで終わらせることが可能になります。早いと反復する期間もその分早くなるので記憶が定着しやすくなります。

右脳教育をやっていない人から見ると、とても羨ましい力が身に付くのです。そのためにもそろばんや速聴読を受けている生徒は、今受けている右脳教育を一生懸命に取り組んで欲しいと思います。

右脳教育の代表的な存在として、ピアノとそろばんがあります。ピアノやそろばんを習うと演奏がうまくなったり、計算が早くなったりするのはわかるのですが、それ以外にどのような力が付くのでしょうか？

私が右脳教育を受けている生徒や先生たちの行動を見て一番良いなと思う力は、2つのことを同時に実行できる力です。そろばんも2級くらいいレベルになると、会話しながら暗算で計算が出来ます。昔は「そろばんを弾く」「や」「や」は自動定する「ごごご」言葉を使っていたが話をし



若杉友子 著

若杉ばあちゃんの食養相談室

書籍紹介

この本は、サブタイトルに「食い改めのススメ」とあるように今の栄養学に基づいた食習慣を江戸時代に確立された考え方をもとに改めようという本です。そして、本当の和食の良さや先人の知恵に基づいた生活をしようという本です。実践からの学びが中心の本なので、エビデンスが不足しているというコメントもありましたが、今の成人病、アトピー等の原因不明の病に対して、多くのクライアントを実際に改善させてきた実体験に基づいた本なのです。私も今まで菜食主義に挑戦したり糖質制限に挑戦したりと、いろいろ学んで実践していくことで、体調が改善してきました。しかし、あまり張り切っているんなやり方を徹底しようとすると逆にストレスになったりするので。この本も肉は良くない等とはっきりと書いてあるので、全部徹底しようとすると大変だとは思いますが、先人の知恵を生かすという意味においてはとてもためになる本だと感じました。マクロビオティックの原点が日本の食事にあること、体を冷やす夏野菜を食べる時は塩を多めにして煮て食べることなど、手軽に使えそうな技も盛りだくさんでした。江戸時代の日本人の体力は本当に凄かったと聞きます。それを支えていたのが米食を中心とした和食なのです。個人的には陰性（冷え易い）体質の私は肉を食べる際に塩分を欲するのですが、それが理にかなっていると知り嬉しくなりました。

実体験コミック & 症状別・食事と手当て法

若杉ばあちゃんの食養相談室

食い改めのススメ

若杉友子 著

食べものを変えたらホントに治った!!

アトピー・花粉症・冷え性・生理痛・落ち込み四十肩五十肩・更年期障害・人間関係の悩み・尿もれ・集中力低下・便秘・抜け毛・腰痛

砂糖はやめときな

大豆と納豆は冷えるよ

食い改め

PARCO出版